

第41号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立泰治

編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 深堀勝人
担当委員 瀬下幸弘

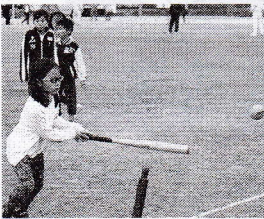
カトリック 北九州地区

信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 親睦レクリエーション
- 2面 平和の集いを終えて
被災地とともに歩もう
- 3面 カン・ウイル司教講演④
- 4面 移住連全国フォーラム
- 5面 司祭紹介・会長から
共同回心式日程
- 6面 シスターズリレー
ニュースあれこれ



10月12日(体育の日)、北九州地区レクリエーション大会が開催された。4名の司祭と福岡から参加してくれた青年たちを含む、子どもたちから高齢の方まで約250名の参加があった。

当日の朝は雨の中での準備となり「中止!」の声がかかることを心配しながらも決行。初参加の牧山勝美神父の挨拶をもってゲーム開始。少し肌寒い中、大人たちはグランドゴルフ、子どもたちのグリーンソフトやキックベース、小さな子どもたちは「ここまでおいで」など、それぞれに楽しい時間を過ごした。昼食になるとあちこちのテントからバーベキューなどのいいにおいが漂っていた。

その後も「アメ食い競争」「パン食い競走」やリレーなど、青年たちの活躍もあり大盛り上がりとなった。

近年は参加を見送る小教区もあり少し寂しい感もあるが、信徒協会長の言うように「これだけの人が集うことができたことを喜び」ながら、今後もこの大会が続けられることを願いたい。

(親睦レク担当/北川卓也 小倉教会)

※当日の様子は教区HPを

10月12日

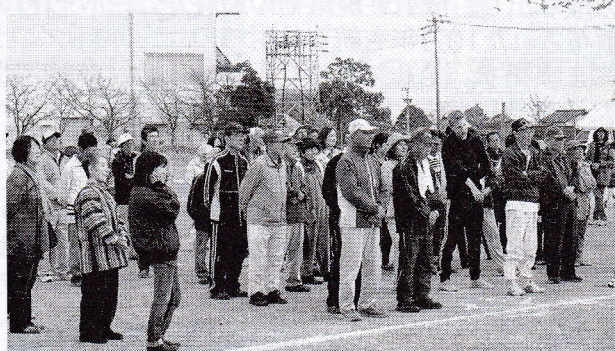
走った、
打った、
食べた!

親睦レクリエーション大会

2016年1月17日(日) 15時~
小倉教会
司祭のみなさんと信徒との懇談会
テーマ「明日の教会を考えよう」

2016年2月11日(木) 10時~
大名町教会
教区信徒協研修会(詳細p.5)

どなたでも参加できます。

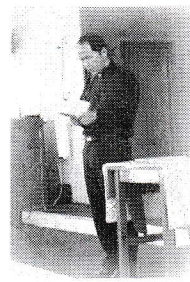


北九州平和の集いを終えて

8月9日
小倉教会

実行委員長

平松修實(門司教会)



講演する川口神父

司教団の戦後70年メッセージにある「平和のために働く決意を新たに」をテーマにした北九州平和の集いは、お陰様で成功裏に終ることができましたが、より大切なことは、その後の日常生活のなかで「平和のために何をするか?」です。

日本の戦争の犠牲となり、今尚日本の防衛のために犠牲を強いられている沖縄の現実があり、集団的自衛権という枠組のために違憲といわれる安保法制を強行し、平和利用という美名をまとった核の使用を再開している。これらの平和を脅かす動きを見過したままで良いのだろうか? 戦争への道を容認せず、協力せず、戦争に参加しないのは当然としても、戦争を予防し、阻止

するためには何ができるのか、考えて行動しましょう。

とりあえずは、日々接する人たちと平安に共生することを基盤とし、社会に働きかける行動を探っていきましょう。

行動で神の愛を証したマザーテレサの言葉をもう一度思い返し、行動のよすがとしたい。

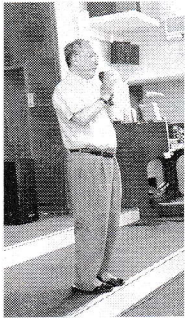
沈黙が実を結ぶと 祈りが生まれる

祈りが実を結ぶと 信仰が生まれる

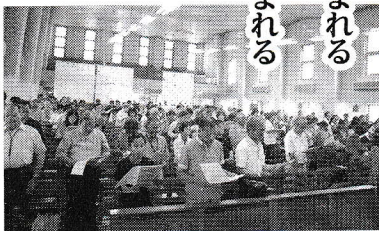
信仰が実を結ぶと 愛が生まれる

愛が実を結ぶと 奉仕が生まれる

奉仕が実を結ぶと 平和が生まれる



牧山神父の被爆体験発表



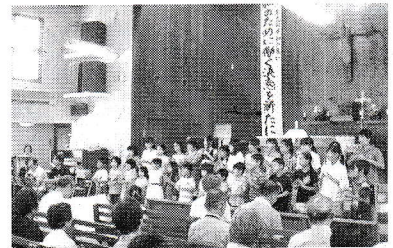
平和のために働く決意を新たに



平和コント



被災地ボランティアで小6生が芸を披露し、集いでも再現



子どもたちの歌声がひびく

被災地とともに歩もう

N・A (黒崎教会信徒)

2011年3月11日の東日本大震災を受けて、日本司教団は「いますぐ、原発の廃止を」を表明しました。原発の是非は神の被造物である、すべてのいのちの問題であり、私たちは自然を守り、子孫により安全で安心できる環境をわたす責任があるという信仰宣言でした。

福島第一原発は、現在でも高線量によって事故の検証が出来ていません。日本政府があの日に出した「原子力緊急事態宣言」はいまだに解除されていないのです。

実際、1日400トンの放射能汚染水、メルトダウンした核燃料の取り出し、放射性廃棄物の最終処分場、空中に散布された10万年も続く放射線の問題も手つかずのままです。そして100万人に一人と言われていた小児性甲状腺ガンが福島では3千人に一人の割合で138名にその疑いがあらわれています(8月31日現在・手術104名)。

私たちは明らかに人間と核は共存できないことを、福島第一原発事故という悲劇的な災害に学んできたのではないのでしょうか。それなのにわずか4年半で、今年の8月11日に川内原発1号機の再稼働がおこなわれ、10月15日には旧型蒸気発生器未

交換のまま2号機が再稼働されました。私は現地の鹿児島で、はるばる来られた福島の方々とお会い、声を聞き、この詩をいただきました。

被災地へ あらおしゅんすけ3・11の記録より

あなたは行きましたか/見ましたか/聞きましたか
家も庭も/人々の歴史までもが津波で流され/放射能が居座っている無人の街へ
人々の思いが積もった山/人々の涙が流れている川/
人々の哀しみを伝える野の風
こういう町があることを知って/もしかするとあなたの町も/こうなるかもしれないと想像したとき/あなたは何をどうしますか

川内原発再稼働は被災者の方々にもっともっと深い傷を負わせていました。もし、潜在的な核能力の保有の為に原発を廃止しないでいるのなら、地方の人間は棄民として扱われているのでしょうか。私は被災地の方々をつながり、持続可能なエネルギーへとともに歩み、連帯の輪を広げていきたいと思いました。

正義と平和全国集会福岡大会

カン・ウイル司教基調講演

④

二〇一四・九・十三

文責／編集部

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢観ながら

「チエジュ島、戦後の歴史」

4・3事件

(1948年5月、38度線の南半分だけで総選挙が行われました。)ところがチエジュドでは、南半分だけの選挙には同意しないという世論が起き、その世論が高まり、選挙ボイコットの動きが島全体に広まりました。その中には確かに社会主義的考えを持つ人たちの働きもかなりあったと思います。当時、チエジュドは戦争が終わり、日本から帰ってきた人たちが、帰還者、帰省者、外に出稼ぎに出てい



た人たち6万人以上が帰ってきました。急に人口が増えたので食べ物不足し、働き口も足りなく生活は苦しい状況に追いやられ、社会的不満が募っていくばかりでした。(分断)選挙反対という社会的不満も重なり島民たちは大衆集会やデモを行いました。それに対し、当時軍政の責任は占領軍である米軍が持つていたので、米軍は地元地域の警察をとおして島民たちの動きにかなり強圧的に対応しました。警察はこの動きの背景にはすべて共産主義者の働きがあるとみなし、それらしき左翼の人たちを逮捕し、いろんな拷問を行い、結果命を落とす人もいました。段々悪化していく状況を感じた左翼グループの人たちは、このままでは全員捕まって刑務所にくるか殺されるしかない危険を感じようになりまし

た。そしてかれらは討論を通じて、このままでやられるよりは立ち上がるしかない、1948年4月3日、チエジュ島内の12ヶ所の警察所を襲撃しました。この事件によって米軍はチエジュド全体を「レッドアイランド」赤い島」と名付け、韓国本土から軍隊を派兵し、赤狩りを始めました。

当時のチエジュドは少しでも山の方へ入っていけば、森が深く小規模な軍隊ではなかなか武装ゲリラ達を鎮圧することができませんでした。1948年8月15日に韓国政府が樹立され、イ・スマン(李承晩)大統領が就任しました。彼はチエジュド全域にだけ戒厳令を布告し、韓国本土から大部隊を派遣して鎮圧作戦を展開しました。軍隊は山岳地帯に住む住民に空からビラを撒き、一週間以内に海岸線から5km以内の地点に山から降りて来なさい、一週間以内に降りてこない人は皆武装ゲリラと見做すという布告文をバラ撒きました。そして一週間後、軍隊は山岳地帯に散在している村を一つずつ片っ端

から包囲して無差別的焦土化作戦を展開しました。イ・スマン政権は、この時、軍隊だけではなく、鎮圧作戦にいわゆる西北青年団という右翼団体をチエジュドに送り込み赤狩りの手助けをするようにしました。西北青年団とは、38度線より北のピョンヤン近くの地方を西北というのですが、北朝鮮にソ連による共産政権が成立し、北に居たいろんな土地を持っている人や公務員として働いていた人たちは、徹底的に迫害、粛清される体験があったので、彼らが南へ逃げて新しく作ったのが西北青年団であります。彼らはふるさと財産も全て奪われた人たちですから、共産主義者といえば、目の色を変えて敵とするという姿勢でした。その彼らがチエジュドに来て鎮圧作戦に合流したので、チエジュドの人たちは今でも、西北青年団と言えば彼らが軍隊警察よりも、もっと残酷なやり方で住民たちを苦しめたということをはっきりと覚え記憶しています。軍隊とその団体の行った焦土化作戦で山岳地帯の家屋95%が

焼かれ、数えきれない住民が殺害されました。家を焼かれ、畑を失った住民約2万人が、左翼武装勢力に強いられ、たこともありますが、生きのびるためもつと山奥に身を隠すしかありませんでした。彼らは政府からゲリラとして討伐の対象にさせられました。1949年3月、チエジュド地区戦闘司令部は山にたてこもっている人たちに、山から降りてくれば赦免するという広報活動を行いました。それを信じてかなりの人が下山しましたが、その島民たちに対して当局は全員赦免せず、刑務所に送るかあるいは処刑しました。1946年6月、武装ゲリラの総司令官ともいえるイ・ドック(李徳九)という人が射殺されるということになり、それによって武装グループは事実上壊滅しました。そして4・43事件は一応整理されるかのように終わりました。

しかし、翌年6月、北朝鮮軍隊が38度線を越えて南へ進撃しました。南北間の戦争が勃発し再び大変な状態が引き起こされたのです。(次号)

6月に開催した「移住労働者と連帯する全国フォーラム・関門2015」は8つの分科会と3つの講演会が行われました。全部の報告は現在「フォーラム報告集」として編集作業を行っていますが、第4分科会の報告の一部を紹介したいと思います。 実行委員会 岩本光弘

※第4分科 **「外国にルーツを持つ子どもの教育と貧困の問題」**

アジアに生きる会・ふくおか 井上幸雄

※福岡市での高校進路ガイダンス(「日本語を母語としない子どもたちの高校進学を考える会」)

この問題は「共に生きる街ふくおかの会」と「福岡地区進路保障協議会」とで開催してきたのですが、新しいテーマとして取り組むようになり毎年夏休みに保護者も一緒に勉強会と進路指導をしています。

○ 進路ガイダンスをやりたいと考えた2つの理由

ア) つながりのあったDVサバイバーのシングルマザーから、娘の進路について相談を受けた時、きちんとした対応ができなかった。結局、彼女は高校には行かずフリーターとなった。彼女が高校に行けなかったのは、本人の学力、家庭の経済力、周りからの支援の不足に加え、適切な情報提供が不足していたのではないかとの反省があった。

イ) ある年の高校の帰国子女特別入試の面接の場で、本人の希望と願書の志望学科が違っていたことが判明した。担任の思い込み、本人、保護者への担任や進路担当からの情報提供の不十分さが原因だった。こういった理由から進路ガイダンス開催の必要性を痛感していた。

○ 進路ガイダンスは、5言語で資料を作成しています。最近は120~130人の参加者がある。しかし、当事者の参加は40人程度に止まっている。対象者が少ない学校には情報が伝わらないこともある。また、ガイダンスの後のアフターフォローの体制ができていない、県教委から人が来てもらえない等の課題がある。

※小学校就学ガイダンス(久留米ベテルキリスト教会にて試験的に実施)

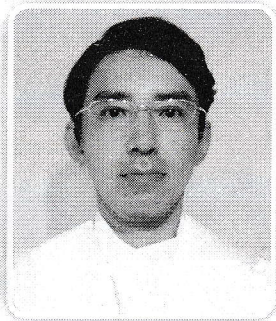
- 久留米ベテルキリスト教会には、大勢のフィリピン人のお母さんと二世の子どもたちが来ていて、子どもの教育について不安を感じていたり、日本の教育制度を十分理解していない状況があったため、進路ガイダンスの必要を感じていた。
- 資料は英語とタガログ語で作成し、公立学校と私立学校の違い、日本の教育制度、教育の内容、学校で必要なお金、色々学校で起こりうる問題などについて説明している。
- 会場からは、いじめ問題について活発な議論が行われ、PTAについては「積極的に関わりたいのに疎外されてきた」「父親にもっと関わってほしい」「日本の学校は規則が厳しい」などの意見が出された。

※多文化中高生交流会の取り組み－成果と課題と次のステップに向けて

大分人権教育ワークショップ研究会 足立恵理

大分でも進路ガイダンスを行っていますが、それとセットで中高生交流会も取り組んでいます。交流会に来る子の中には、学校で日本語を教えてもらってなくて、入試があるのに学力に心配な子もいます。差がありすぎる状況があり、学校でも子どもや大人に自己表現の練習をさせてもらっています。進路ガイダンスの1日だけでその子たちの悩みなどを引き出すことができるのか不安でした。交流会は年4回。1度参加してくれると継続して参加してくれることが多く、学生スタッフと普段からつながっています。このような面で大分県は未整備な部分も多いので、3月に合宿をしています。その中で自分の気持ちを吐き出せる子も出てきます。現状では子供たちや保護者の可視化が進み、支援者や引率者、協力者との共通理解が進んできました。

司祭紹介コーナー



田川教会・直方教会
主任司祭

ルカ
大塚了平 神父

1976年生まれ
熊本県合志市出身

『司祭談』

はじめまして。今年で司祭叙階から、5年目になりました。これまで、大名町教会、光丘教会、鳥栖・小郡教会で、助任司祭として奉仕してきました。4月から、田川教会、直方教会を兼任で、主任司祭となりました。私は熊本の生まれで、北九州も、筑豊もほとんど来たことはありません。まだまだ分からないことばかりで、戸惑うこともあります。教会は一つ、信仰は一つです。これから、皆様と心を合わせて、神の国の完成のために奉仕していければと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

『信徒談』

大塚神父様は、いつも穏やかで多芸多才な神父様です。引越して運ばれた熱帯魚やミシン、台所用品の数々に驚いたのがスタートでした。司祭館の裏にはレンガで囲まれたハーブ畑が登場、教会学校のキャンプではご自身で描かれたスライド紙芝居を披露して下さいました。聖書勉強ではその時代の暮らしや歴史を踏まえた切り口で話して下さい、新たな発見や納得が満載…と、このスペースでは書ききれません。大塚神父様これからも田川・直方教会をよろしく願います。

教区信徒協 研修会へのお誘い

北九州信徒協会長
追立 泰治

すっかり朝晩冷え込んで、秋本番。風邪やインフルエンザの流行る時期となりました。皆様、体調管理には十分ご注意を。
さて、8月の平和の集い、10月のレクリエーション大会、参加して下さい下さった方々、ありがとうございました。平和の集いは今年で15回！地区の各教会から多くの方々が参加し、共に一つになつて平和を語り、祈り合う。このような集いが15年も続いていること、これこそ神様の恵み以外の何物でもありません。昨年は雨で中止となつたレクリエーション大会。今年もテント組立て中に雨。しかし30分

ほどで済み、その後は暑くもなく寒くもなくのいいコンディションで、楽しい時間が持てました。午前中は大人がグラウンドゴルフ、子どもはグリーンソフト、午後はみんなでリレーやパンくい競争・餡くい競争と見るほうも楽しい時間でした。青年達の協力ありがとうございました。次回は、今回参加されなかった方の参加、そしてできれば全教会からの参加を楽しみにしています。
表記、教区信徒協研修会が来年度は11月11日に予定されています(前号では1月11日としていましたが、間違いました)。昨年の正義と平和

全国集会の流れをくみ、立ち上げられた社会福音ネットワーク・福岡が中心となつて企画しています。今回の研修会はシエガレ神父の基調講演の後、9分科会に分けられ、参加者には希望する分科会を選んでいただきます。その9つは、福島家族支援、憲法・水俣病・精神障がい・沖縄・女性と子ども・不登校児の各問題、抱樸(ホームレス)とシエガレ師を囲んで、です。11月中に各小教区に案内が配布されます。小教区ではなかなかこのような研修会を持つことは難しいと思います。少しでもイエスのような生き方をしたいと思う私たちにとって今回の研修会は大いに役立つと確信します。ぜひ、あなたの参加をお待ちしています。

待降節 共同回心式日程

日付	教会名	時間
12月4日(金)	戸畑	10:00,19:00
12月8日(火)	行橋	11:00,19:30
12月9日(水)	新田原	10:00,19:00
12月10日(木)	飯塚	10:30,19:00
12月10日(木)	直方	10:00,19:00
12月11日(金)	水巻	10:00,19:30
12月11日(金)	門司	10:00,19:00

日付	教会名	時間
12月11日(金)	若松	— 19:00
12月11日(金)	豊津	— 19:30
12月14日(月)	天神町	11:00,19:00
12月15日(火)	黒崎	10:30,19:00
12月16日(水)	湯川	10:30,19:30
12月17日(木)	小倉	10:00,19:00
12月21日(月)	田川	10:00,18:00

ご存知ですか？ シスターズリレー (2)

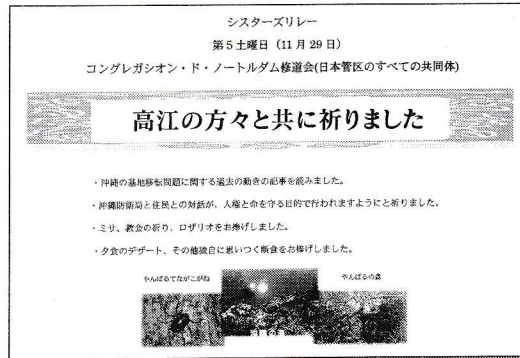
Congregacion・ド・ノートルダム修道会の活動紹介

「シスターズリレー」とは日本女子修道会総長管区長の呼びかけにより、現在の日本の緊急課題について、日本の女子修道会が駅伝のように祈りをつないでいこうとするものです。

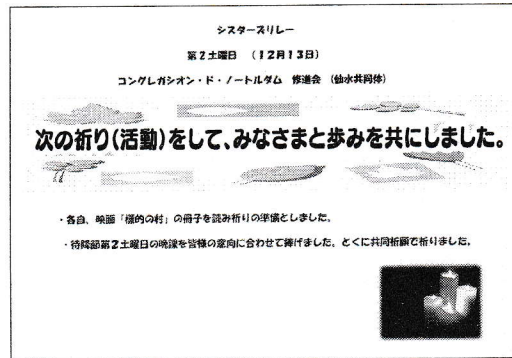
2014年は、沖縄東村高江の方々のためでした。修道会が4つのグループに分けられ第1土曜日から第4土曜日の、どの土曜日に走る（祈る）かが決められました。第5土曜日は全修道会が走りました。1グループにつき約20余の修道会でした。

私たちCongregacion・ド・ノートルダムは第2土曜日でしたので、福島、調布、北九州の3つの共同体のそれぞれの係りが中心となって、当日には祈り、犠牲、沖縄の紹介などの活動がなされました。管区の係りがそれらをA4のポスターにまとめ、メールで沖縄のシスターに送りました。シスター方はそのようにして全国から送られた祈りのポスターを携えて、座り込みなどに出かけました。それらは非常に力となったとその修道会の総長様から感謝の言葉をいただきました。

私たちは福島に修道院をもち、3.11の被災の苦しみをともにしていますので、沖縄の方々の苦しみ、悔しさはいかばかりかと心を合わせて祈りました。



- ・沖縄の基地移転に関する過去の動きの記事を読みました。
- ・沖縄防衛局と住民との対話が、人権と命を守る目的で行われますようにと祈りました。
- ・ミサ、教会の祈り、ロザリオをお捧げしました。
- ・夕食のデザート、その他独自に思いつく断食をお捧げしました。



- ・各自、映画「標的の村」の冊子を読み、祈りの準備としました。
- ・待降節第2土曜日の晩課を皆様の意向に合わせて捧げました。とくに共同で祈りました。

【沖縄に送ったポスター】

ニュースあれこれ

◆湯川教会専用駐車場

建て替え中だった聖母園の工事が終了しました。すでに閉園している幼稚園の運動場を湯川教会専用駐車場としたのでご利用ください。

◆書籍の紹介

①「五島キリシタンルーツの旅」黒崎教会信徒上村敏雄さん(八幡西区)著。2001年に第1刷、翌年には続編を発行。今回はその合本版。明治初期の長崎県下五島の迫害の実態が顕著に書かれている。迫害を受けた「惣五郎」が上村氏の先祖と知り、「さらに先を調べる欲望をかきたてられた」とある。B6判。300頁。問い合わせ電話093-642-1535

②「邪宗門の女たち」八代教会の信徒会長、長濱聰さん著。17世紀初頭の八代を舞台としたキリシタン迫害。「殉教する夫と我が子を送り出す側に立てばもつと殉教が見えてくるのではないか」との思いで書き始めた」と。カトリック新聞にも紹介され、またパウロ書院が全国の書店で取扱

うことになっている。A5判。320頁。二千円と消費税。問い合わせ FAX 0965-133-9858

編集室の窓

*多くの方が共通している点の一つに「忙しくてなかなか集まりが持たにくい」という問題があります。信徒協広報部会も例外ではありません。北九州一円から夕方頃に集まるには、場所の問題や一人ひとりの都合があり調整するにも時間がかかります。この問題をクリアしようと「試み」を始めました。FAXやメールを活用して幅広く原稿を集め、校正を広報部だけでなく信徒協役員の方々にも協力していただくという試みです。今号は、みなさまのご協力のお陰で「試み」がうまくいきました。もちろん関係者に校正紙を郵送し、チェックしていただく時間が必要となります。なかなか返事が戻って来ないものかしきがありましたが、広報部中心の広報紙ではなく信徒協の広報紙として意識しながら「試み」を次号も継続してみます。(瀬下)